

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400096		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホーム虹色		
所在地	名古屋市緑区桶狭間北3丁目106号		
自己評価作成日	平成22年1月29日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中原区松原町一丁目24番地 S101号室
訪問調査日	平成22年2月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム虹色は母体組織が病院なので、介護における医療面でのケアが充実していると考えています。特に精神疾患を併せ持つ認知症の方への対応が充実しています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である「おけはざまクリニック」で透析を受けていただけますし、日常の健診や定期受診も受けていただけます。

また職員の教育にも力を入れており、認知症、拘束、虐待等の講習や勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加出来る環境を積極的に作っています。

隣接する関連施設と連携し、ボランティアによる演奏会や色々な催し物を共催し楽しんでます。又、緊急時の対応も協力し合える体制にあり、訓練等も合同で行っております。

高齢者特有の疾患や介護に関する市民講座を開催し、地域の皆様に多数の参加を頂いており、今後も地域に密着したサービスの提供を実施していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、昨年1月に小規模多機能型事業所に併設して開設している。隣接している同一法人のグループホームと共同して、サービスの質の向上に取り組み、地域への働きかけも積極的に行っている。職員にとって働きやすい職場であるため、離職も少なく生き生きと働いており、利用者も落ち着いて穏やかに暮らすことができている。今年度の自己評価には職員全員が取り組み作成している。また、併設事業所とも協力しながら、市民講座も行い、多くの方の参加があった。医療連携も充実し、利用者・家族にとって安心した住まいとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の運営理念を事務室に掲げ、申し送り後皆で唱和し、全員が理解し実践している。	理念は掲示してあり、毎朝唱和し、常に念頭にある。利用者の感じていること、気持ちを大切にしている。職員も、皆で唱和する事で、効果があるとその必要性を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内のお祭り、神社等の清掃活動など、地域の行事に参加している。又、日常的には散歩、買物で地域につながりをもって、過ごしている。	町内会に入っており、お祭り、清掃等、行事に利用者も参加している。地域の小学生を母の日会に招いたり、運動会に利用者が見に行くなどの交流がある。地域に向けて市民講座を1月、8月に開催した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年に2回市民講座を開催し、認知症や介護についての講習を開き、地域の人々に参加して頂いている。又、相談コーナーを設け、相談にもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で開催できている。構成員として、町内会長、民生委員、利用者家族をはじめ、行政職員から地域包括支援センター職員の参加が叶った。会議の内容は、利用者の状況の報告、活動内容の他、行政等の評価報告や勉強会を行いサービスの向上に活かしている。	会議は、2か月に1回定期的に開催できている。会議の際や家族アンケートから出た要望を報告し、対応を考え運営に活かしている。また、地域包括支援センターに働きかけた結果、出席が実現した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の会議後、内容の報告をはじめ、情報収集等、積極的に行っている。又、行政主催の会合にも出席し、市町村との距離が離れることなく、サービスの向上に取り組んでいる。	毎月、関連事業所である、グループホームよるこび、ゆうとの合同会議を公民館で行い、報告を介護指導課へ出向いている。そこで、アンケート調査を見て頂いたり情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習や会議で勉強会を行い、身体拘束のみならず、言葉の拘束にも注意している。具体的事例や排除宣言を掲示し、職員全員が実施している。	基本的には開錠しているが、出ようとする人がいる場合は施錠しているが、一緒に歩く対応もしている。外部の講習に行った職員が合同会議で研修を行い、身体拘束について職員が考える機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会・講習会がある場合は、必ず職員が参加し、会議にて職員全体に展開している。今後、高齢者虐待防止関連法について詳しく学ぶ機会を設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務長が率先して研修会に参加している。又、PSWによる講義も行った。今後も研修会・勉強会等がある場合は、積極的に参加し全職員が理解できるよう、展開していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分説明を行い、不安が無い様子を時間をかけその都度質問に答えている。改定等の場合は、あらかじめ書面にて家族等に理解、納得を得てから実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の意見等を聞ける体制にある。又専用ノートを設け利用者からの苦情を書きとめ、スタッフ全員で対応策を検討し、会議を通じ全グループ施設に展開している。独自のアンケート調査を行い、苦情等の意見を聞きやすい状態を作っている。	現在家族会はないが、合同会議で検討中である。毎月ホーム便りを家族に郵送している。独自の家族アンケートを実施し、意見を聴く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、管理者会議で職員の意見を代弁できる状態を設け、運営に反映させる様努めている。	職員の要望や意見が上層部に届く仕組みがあり、活かされている。フロアミーティングで意見を聞き利用者へのケア技術について思ったことを言える状況であり、意見が言いやすい雰囲気が職場にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	情意・能力・業績等の基づいた給与査定制度を実施しており、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習等の情報はその都度管理者を通じ、一人ひとりにあった講習を薦めている。その他、玄関の掲示板には、情報を掲示し、本人のスキルアップは、積極的におこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域の施設に、訪問し情報交換をおこなっている。又、研修等のグループホームディスカッションの場で、交流の機会を得てサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様には、常に安心して頂ける事を第一とし、コミュニケーションをとり信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とも連絡をとりあい、些細な事でも耳を傾けるよう努めている。又、月間便りにそれぞれご家族のお気づき、ご要望欄に書いて頂けることになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、ケアマネージャー、管理者など皆で話し合っている。現時点で必要な支援を見極め、他を含めた柔軟なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをとり、暮らしを共にする者同士の関係を築いていける様、努力している。又、掃除・配膳等一緒におこない、一方的にならない関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	便りや面会時に、入居者様の状況を知らせ、家族との関係がとぎれないよう、意見交換をし支援している。又、対等な関係を築けるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ馴染みの人、場所との関係が途切れないようにしている。手紙を出したり、馴染みの方が来訪された時は、笑顔で迎え訪問しやすい雰囲気作りを大切にしている。	馴染みの床屋に通っている利用者がいる。絵手紙を作成した時に家族に送っている。本人の要望を聞き、疎遠になっていた家族と再会できた利用者がいる。また、親族と旅行や食事に行った方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者皆様が参加出来るレクリエーションを考え、互いに支えあいながら関係をつくっている。又、役割をもって頂く中で、利用者同士の支え合いを感じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族より相談の電話等があれば、親切に対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とコミュニケーションをとり、本人の思いを把握し、希望に添えるよう支援している。又、困難な場合は、本人本位で行えるよう努めている。	入浴時や夕食後等、話しやすい時に思いや生活歴を聞き取り、センター方式を利用して、暮らしぶりを職員間で共有し、生活史、希望、願いの好き嫌い表をつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様から話を聞いたり、個人情報ファイルに目を通し、プライバシーの配慮に気をつけ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや介護記録によって、一人ひとりの状態を把握し、現在の有する力等で無理することなく行える事で支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ・本人・家族・ケアマネージャーと話し合い、現状に即した必要なケア、サービスを介護計画に反映させている。	担当の職員が他の職員から意見を聞きケアマネージャーと介護計画を作成している。本人家族からは前もって意向を聞き、作成後確認してもらっている。計画は3か月に1回見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で気づいた点など、介護記録・申し送り等で職員間で情報を共有し、サービスの見直しに活かし、全員がわかる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の訴えや要望を大切に、安心して頂けるよう、臨機応変に柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の興味がわく、歴史上有名な桶狭間古戦場公園が散歩コースになっている。その公園では盆踊り大会等の行事、清掃活動に参加している。又、歩いていける距離にスーパーがあり、買物に行ったりの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族様の希望のかかりつけ医等への受診も、家族が付き添えない場合は職員が付き添っている。又、医療連携も整っており、隣接する協力医療機関で定期受診・検診も適切に行われている。	主治医の選択は本人家族の意向に任せている。連携医への受診は職員が付き添って行く。変化があれば家族へ電話連絡して報告している。協力医療機関による検診が年2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、ケアマネージャーが看護師でもあり、常に相談出来る環境にあります。又、桶狭間病院勤務の訪問看護師にも、状態の変化や気づき等伝え相談し、適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、常に病院との情報を得よう努めており、それらの情報を申し送り、記録等で各スタッフで共有している。又、入院時は定期的に見舞いに伺い、早期退院や今後のことに関しても、密に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いており、ターミナルケアの希望があれば対応していける様、チームでの支援に取り組む体制作り、努めている。	入居時に対応方針の同意を頂いている。医療行為が発生したら、看れる範囲内で医者・管理者の判断となる。検討委員会での話し合いや、オンブズマンに相談したりしている。入院後は見舞いに行っている。	終末期にかかるケア全般を看取りとしてとらえるという考えのもとで、そこへ至るまでの職員の看取り意識の深透を、継続的に研修等を通じて計りたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接するグループ施設にはAEDを設置しており、扱い方の講習や応急手当、初期対応を全体会議で訓練・勉強をしている。緊急時の状態の見極めとして、意識レベル等の会議を定期的に行い、職員全員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災・避難訓練を実施しており、消防署への報告も行っている。夜間想定訓練では、グループ施設の協力を受ける体制を作っている。	年2回、避難訓練し利用者も参加した。機器の取り扱いや、シーツに包んでの救助も習った。夜間想定もし、関連施設とも協力し合っている。町内会(消防用)と防災協定し、広域災害時は受入可能である。備蓄は3日分、オムツは1か月分はある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今日までの利用者様の人生は十分に尊重しており、尊敬・敬意を持って接している。ちょっとした言葉かけにも慎重に、皆様のペースに合わせる様、努めている。	言葉遣いや表情に気をつけて接するように心がけている。トイレ誘導は個人に合わせた声かけや合図で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から一人ひとりと会話をし、思いや考えを言いやすいように心がけ、自己決定も常に理解し、把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしや決まり事のある中で、強制はせずその方のペースで暮らせるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った身だしなみやおしゃれによって、生き生きとした生活が送れる様、常に気を配り支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に配膳・片付け等一緒に行っている。昼食のクッキングの日は、その方の得意なことを活かし、皆さんで協力し合い、食事が楽しくなるよう工夫している。	下膳、洗い物、トレー拭き、台拭き等、役割を持って利用者が手伝っている。食事は配食の日と週2回はクッキングの日としており、その際の昼食は、利用者とともに食事づくりをしている。月に1回位外食の機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回チェックし、それぞれに合った食べやすい大きさ、状態にし食べて頂いている。体調により、摂取量の少ない場合は、栄養バランスを考え、栄養補助剤などで補っている。又、水分補給に関しては、食事のほか、午前の体操後、午後のおやつ時、入浴後等、随時行い、確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要性は、全職員が理解しており、毎食後、必ず行っている。ご自分でされる方は見守りで、介助が必要な方には、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンを知り、自立に向けた支援を行っている。夜間紙オムツの方も、日中は布パンツをはいて頂いている。	個人の排泄チェック表で、パターンをつかみ、声かけし、できるだけトイレで排泄するように支援している。排泄支援により、布パンツを着けるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて対応し、便秘等の対策として水分補給、食事の工夫、腹部マッサージを行い、排便を促す援助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・順番等を決め不公平にならない様にしており、出来るかぎり利用者様の希望にそって、入浴して頂いている。又、入浴剤の色や香りなどを変え楽しんで頂いている。	週3回で時間と順番は公平に決まっている。入浴時は職員とよく会話され本音が聞けるので、思いを汲む事が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日常のリズムを把握しており、状況に応じて休息して頂いている。不眠時や訴えの多い時は、休息を促す支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬入れに一覧を貼り、全職員が理解できるよう努めている。又、判断しかねる場合は、必ず管理者に相談し、指示をあおいでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、掃除・料理等、役割を生かした支援をしている。ボランティアによる絵手紙・ちぎり絵の作品作りで楽しんで頂いている。又、タバコ、買物等出来る限り自由にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそっての外出は、必ずされているとは言えないが、出来る限り希望にそって、努めている。又、外食・行楽等家族の協力を得て、支援している。	天気が良ければ散歩や買い物に出かけている。主治医や家族の了解をもらって、安全に配慮しながら一人で出掛ける人もいる。また、遠くへ出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつ等利用者が希望している時は、近隣のスーパーなどに行き本人の希望する物を買って頂いている。お金の所持に関しては、事務所で管理する場合はあらかじめ家族に相談し、領収書・残高等、便りと一緒に送付し報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は、出来る限り電話をかけることのできるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家庭のリビングのように、ゆったり過ごして頂ける空間作りに努めている。又、季節を感じる事の出来る花・利用者様の作品・イベントの飾りつけを一緒に行っている。	リビングは落ち着いた色の壁紙で統一されている。食卓と離れて3人掛けのソファが置かれ、決まった場所へ座って、テレビを見たり、寛ぐことができる。ちぎり絵と虎やぬり絵のひな人形等も飾られ、季節感が出す工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室にて一人になる時間をとっておられたり、リビングでは談話・テレビ鑑賞等、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望・家族の要望をきき、使い慣れた家具等を自由にして頂いている。本人の居心地のよい部屋になるよう支援している。	仏壇を置いて仏花を供えている部屋もあれば、冷蔵庫やポットを置いている人もいる。写真や作品を飾り、それぞれ個性のある部屋になっている。夜に使用の家具調ポータブルトイレがあり、昼は椅子として使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・フロアの掃除、配膳等、「できること」を安全を第一に無理をしない程度で、行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム虹色

目標達成計画

作成日: 平成 22年 3月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	終末期にかかるケア全般を看取りとしてとらえており、看取り検討委員会も設置している。	全職員に対し、看取りに対する意識の統一を図る。	一人ひとりの職員に、看取りの意識を浸透させる研修や勉強を、継続的に実施して行く。	12ヶ月
2	6	家族の意見等を聞く体制は、ホーム便り・独自の家族アンケート・意見箱などがあるが、家族会がない為、家族間の意見交換がなされていない。	家族会の実施の実現を図る	家族会の必要性を、アンケートでご家族に聞き、結果を踏まえ取り組んで行く。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月